

北海道熊研究会」 Hokkaido Bear Research Association

創刊 2013年1月25日

<北海道熊研究会 会報> 第111号 2022年3月30日

北海道熊研究会事務局

北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

ご意見ご連絡は本紙送信 email ではなく、下記の email へお願い致します

Email: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

既報会報の1~110号以前の号は Website に

「北海道野性動物研究所」と入力し、ご覧下さい。

このたび、「北海道熊研究会」の Facebook を開設致しましたのでお知らせ致します。編集は横山敬子氏です。

<https://www.facebook.com/HokkaidoBearResearchAssociation>

「北海道熊研究会」 Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

< 北海道知事に質問状 >

北海道知事に対し、「この4月から、熊に依る人の死亡を「ゼロ」にする為に、熊の駆除をこの4月から増やす事を決定した事」に対し、「北海道の熊問題を考える会」として、この3月24日付けで、質問状出しました。今回は、その質問状の内容を、皆さんに、識って戴きたく、ここに掲載致します。反対の声を上げて下さい

北海道知事
鈴木 直道 様

日ごろの道政お疲れさまです。

さて、北海道新聞（2022年3月8日）の記事によれば、道では「熊による人身被害をゼロにする為に」令和4年度から、「ヒグマの捕獲数を増やす決定をした」と報道されております。しかし、我々は、その決定には疑問を感じることから、その件について、知事に質問いたしますので、質問の各項目について、書面で、4月11日迄にご回答頂きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

2022年 3月24日

北海道の熊問題を考える会 （共同代表）
門崎 允昭
藤田 弘志
稗田 一俊
奥津 義広
長谷 智恵子

北海道野生動物研究所
〒004-002
札幌市厚別区厚別南3丁目8-22

【質問1】

北海道では、1989年（33年前）5月末で、ヒグマが減少したとの理由で、春グマ駆除の制度を全面的に廃止し、ヒグマによる「人的経済的被害を予防する対策を確立するための調査」を開始するとして、以来、今日に至るまでの33年間、調査が継続されてきたが、いまだにヒグマ対策は何一つ提起されないままになっていますが、33年間行ってきた総括として、何一つヒグマ対策について提言されていないその理由について、知事のお考えをお聞かせください。

【質問 2】

1989 年から今日に至るまでの 33 年間行ってきた調査の中で、体毛採取しての DNA 分析による個体識別やビデオカメラで録画したことが、「人的経済的被害予防」にどのような対策として活かされているのか、具体的な対策事例を教えてください。

【質問 3】

2021 年 6 月 18 日に札幌市東区において、4 人がヒグマに怪我をさせられたヒグマ騒動について、33 年もの調査研究の実績があれば、しかも市街地で、住民に怪我を負わせるようなことなど発生するはずがありませんから、この件に関して、以下の 4 項目について教えてください。

1. 5 月 29 日にヒグマが目撃されていますので、この時点で、ヒグマの動向について継続した調査を行い、同時進行的に、市街地へ入り込むことが予測される地点や範囲をあぶり出し、その範囲に電気柵を設置して、市街地へ侵入させないように侵入防止の対策ができたはずですが、なぜそうした侵入を防止する対策をしなかったのか、その理由を詳しくご説明ください。

2. 初期対応の稚拙な怠慢が原因となり、ヒグマが行動範囲を広げることになり、とうとう 6 月 18 日には住宅地を徘徊するまでに至りました。ところが、このヒグマを追い回し、追い詰めたために、まさに「窮鼠猫を噛む」の諺どおりに、ヒグマをパニックに陥らせてしまうことになり、その結果、4 人の方が怪我をされることになりました。

ヒグマを追い回し、追い詰めたらパニックに陥らせてしまうので危険になるという認識があったのかどうか、教えてください。

3. この住宅地をヒグマが徘徊しているまさにその時に、33 年もの調査研究の実績のある北海道のヒグマ専門家はなぜ現地に駆けつけなかったのでしょうか。現場へ駆けつけて、現地で陣頭指揮を執らなかった理由について詳しく教えてください。

4. 北海道にはヒグマの専門家が複数おられると思います。専門家のどなたも現場に出られない状況であったとしても、ヒグマの専門家でもない警察官が現場で対応しているのですから、専門家として、指示は出せたはずですから、どの時点から、どのような指示を現場の警察官に出されていたのか、時系列が解るように、詳しく教えてください。

【質問 4】

標茶町でのヒグマによる放牧牛被害についてですが、ビデオ撮影のみが行われたようですが、なぜ、電気柵による迅速なるヒグマの出没抑止対策をしなかったのでしょうか、その理由を時系列で解るように、詳しく教えてください。

【質問 5】

ヒグマの出没抑止はヒグマの捕殺数を増加させることで達成されるのでしょうか？
出没抑止を達成出来るというのであれば、根拠を示して詳しくご説明ください。

【質問 6】

新年度の北海道ヒグマ関連予算について、電気柵による出没抑止対策費、DNA 分析に関する費用、ビデオ撮影に関する費用、ICT (AI) に関する費用、及び、それらの全予算に対する割合を教えてください。

【質問 7】

ヒグマ対策の部署が新たに新設されるようですが、どのような対策を行うのか、中身を詳しく教えてください。

【質問 8】

ヒグマの観察を疎かにした専門家のみで委員によって構成された委員会は 33 年間を経てもなお、いまだに効果的なヒグマ出没抑止対策を打ち出せず、かつ、ヒグマの習性に合致した適切な出没抑止策を打ち出すこともできないため、現に、今日に至ってもなお出没抑止することもできず、出没騒ぎが繰り返されるばかりで、様々な被害を発生し、被害を拡大させるばかりとなっております。

そこで、現状の 33 年間にもわたり膠着状態にある知見を排除して、新たな知見や発想を取り入れるべく、現場の事情を知り、ヒグマの習性を熟知する人材を広く公募し、中央と出先機関にヒグマ対策専従班を設置するなど、現実的で効果的なヒグマ対策を立案する仕組みを作っていただきたいと思いますので、知事の見解をお伺いします。現状の委員の構成のままでは、今後もヒグマ出没は抑止出来ず、かつ、被害を拡大させる一途となりますので、詳しく教えていただきたいと思います。

以上、8 項目について質問させていただきますので、年度末のお忙しいところとは思いますが、新年度に向けて、効果的で確実なヒグマ対策を構築して頂きたいと思いますので、ぜひ、ご回答ください。

よろしく願いいたします。